

2021年9月14日

大学における不織布マスク着用の推奨

公益社団法人全国大学保健管理協会
一般社団法人国立大学保健管理施設協議会

新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の流行が続く中、後期の授業開始に伴い、学生どうし、あるいは学生と教職員との接触の機会が増えることが予想され、感染防止対策のさらなる徹底が必要となります。

手洗い、換気、人との接触機会を減らすことと並び、マスク着用は感染防止に大きな効果があることが認められていますが、それと同時に、**マスクの素材により感染防止効果に違いがあることが指摘されています**（資料1、2）。

一般に使用されているマスクのうち、最も感染防止効果が高いとされている不織布マスクは、COVID-19の流行拡大の初期に深刻な品薄状態となり、代わりに布マスクやウレタンマスクが多く使用されることになりましたが、現在は、不織布マスクの品薄状態は解消され、十分な量が市場に供給されています。

それにもかかわらず、多くの学生がいまだにウレタンマスクを着用しているのは、不織布マスクよりも安価なことや、洗って繰り返し使えることなどが理由と考えられますが、ウレタンマスクの着用は、不十分な感染防止効果のため、かえって大学内で感染流行を拡大させることが懸念されます。

感染力が強い変異株ウイルスの広がりが問題になっている今日においては、より感染防止効果が高い不織布マスクの着用を強く求めることがたいへん重要であると考えられます。

以上のことから、大学における感染防止を徹底し、ひいては社会全体の COVID-19 流行を収束に向けるために、学生の皆さんはウレタンマスクではなく不織布マスクの着用しましょう。

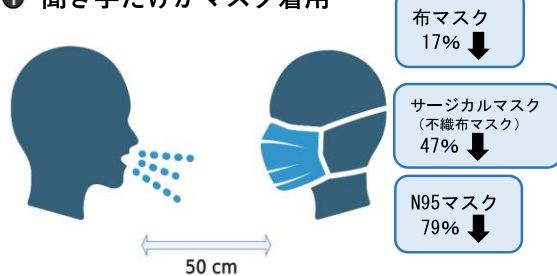
資料 1

％の値が大きいほうが感染防止の効果が高いことを表しています。

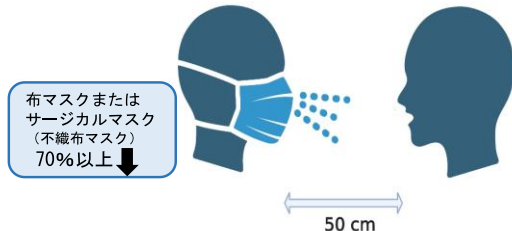
○マスクの効果

東京大学医科学研究所のデータを基に内閣官房作成

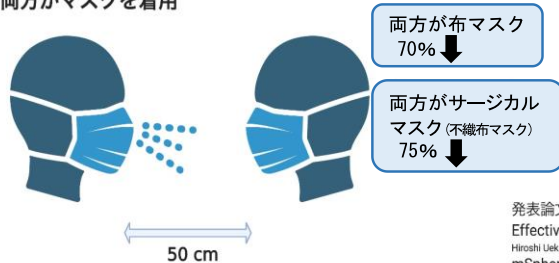
① 聞き手だけがマスク着用



② 話し手だけがマスク着用



③ 両方がマスクを着用



みんながマスクをすることが大切

発表論文
Effectiveness of Face Masks in Preventing Airborne Transmission of SARS-CoV-2
Hiroshi Ueki, Yuri Furusawa, Kiyoko Iwatsuki-Horimoto, Masaki Imai, Hiroki Kabata, Hidekazu Nishimura, Yoshihiro Kawachi
mSphere 2020. DOI: 10.1128/mSphere.00637-20

資料 2 マスクの素材による飛沫防御効果の違い

％の値が小さいほうが、飛沫の飛散量が少なく、感染防止効果が高いことを表しています。

対策方法	なし	マスク			フェイスシールド	マウスシールド	
	吐き出し飛沫量	100%	20%	18-34%	50% ^{※2}	80%	90% ^{※2}
	吸い込み飛沫量	100%	30%	55-65 ^{※2}	60-70 ^{※2}	小さな飛沫に対しては効果なし (エアロゾルは防げない)	

(1) 国立大学法人豊橋技術科学大学^{※2} <https://www.tut.ac.jp/docs/201015kisyakaiken.pdf>
 (2) 坪倉誠 (理化学研究所 神戸大学/教授) 「室内環境におけるウイルス飛沫感染の予測とその対策」
 (2020年8月24日記者勉強会資料) <https://www.r-ccs.riken.jp/fugaku/history/corona/projects/tsubokura/>